

耐震性能や耐震化に対する取組

水道施設の耐震性能、耐震性の向上に関する取組みについて

平成23年10月3日に「水道法施行規則の一部を改正する省令」が公布され、水道事業者が水道の需要者に対して、水道施設の耐震性能及び耐震性の向上に関する取組等の状況を毎年一回以上、情報提供することが義務付けられたことから、勝浦市水道事業における取組状況についてお知らせします。

水道施設の耐震化状況

勝浦市水道事業では、水道施設の耐震化計画については、令和2年度を目途に「水道施設耐震化計画」を策定する予定です。

浄水施設能力・耐震化率（L2対応）

年度	佐野浄水場施設能力(m ³ /日)	耐震化施設能力(m ³ /日)	耐震化率(%)
平成31年度	8,050	0	0.00
令和2年度	8,050	0	0.00

配水池容量・耐震化率（L2対応）

年度	全配水池施設能力(m ³ /日)	耐震化施設能力(m ³ /日)	耐震化率(%)
平成31年度	11,600	350	3.10
令和2年度	11,600	350	3.10

- ※ L2対応(地震動レベル2)とは、その構造物が過去、将来にわたって受ける可能性のある最強と考えられる地震動です。想定しうる範囲で、最大規模の地震を指すものであり、この地震動に対して構造物が倒壊したり、外壁が脱落したりして人命を奪うような被害を生じないように設計するのが耐震化の目標です。

水道管の耐震化状況

勝浦市水道事業では、老朽石綿セメント管の更新事業及び未普及地域解消事業に伴い、平成28年度から配水管の耐震化を実施したところであります。

老朽管の更新における耐震化の優先順位は、石綿セメント管、塩化ビニル管、鋳鉄管の順に耐震化することを基本とし、病院、学校及び避難場所へ配水する重要度の高い水道管を優先して実施していきます。

- ※ 耐震管とは、管と管をつなぐ継手部分に伸縮性や離脱を防止する機能を有しており、地震や地盤沈下などによる地形の変化に対処できる非常に耐震性の高い構造になっております。

基幹管路耐震化率（L2対応）

年度	管路延長(km)	耐震管延長(km)	耐震化率(%)
平成31年度	165.48	4.62	2.800
令和2年度	170.27	5.98	3.520

- ※ 基幹管路とは、水道事業にとって最も重要な管路で、導水管・送水管・配水管のことをいいます。勝浦市に於ける基幹管路の口径は、75mmから400mmを言う。